

編集後記

2008年には、IFLA と IASL が北米、前者がカナダのケベック、後者がアメリカ合衆国のカリフォルニアで開かれて、私は両会議に出席した。今号では、それらの会議で一緒するなどした方たちに、北米各地の図書館実践の今を伝えていただいた。それらの会議は、わかりやすい学習成果だけを求めていくと案外失望することが、ここ数年の経験でわかってきた。そこで、どれだけ、自分の好奇心を手がかりに、多くの人と出会い、図書館というものに対する理解をグローバルな視点にもちあげられるかによって、そのへとへとになる夏の長期の旅が報われるかどうかが決まるというように今は思っている。会議そのものに参加されない方にも、そうしたグローバルな視点をもつ手がかりを、本誌によって提供できたら嬉しく思う。

年度末には、筑波大学で開かれた A-LIEP に参加される北米の学校図書館研究者お二人が京都に寄って、講演をしてくださった。その後、日本の私たちだけでもった、北米の先生方の講演会の復習を兼ねた第二弾の集まりでも、北米のものを凌ぐような実践の報告があった。私はそのことに、大いに考えさせられた。ぜひこれらの記録もお読みいただきたい。お忙しいなか、お話をしてくださり、また記録作成にご協力くださった皆さま、ありがとうございました。

最後に一点、卒業生の皆さまにお願いがあります。同志社大学図書館司書課程・学校図書館司書教諭課程修了の図書館関係者の名簿作成を現在いたしております。今後、本学で図書館関係者のホームカミングデーなどを企画しました場合に、ご連絡をたく思っています。いただいた個人情報 は 本学司書課程・司書教諭課程からのそうしたイベントのお知らせやご協力をお願いなどに使用いたします。免許資格課程センターと司書課程担当教員で管理し、外部に渡すことはございません。最近司書課程から連絡が来ないな、と思われた方は、本学の免許資格課程センターまたは中村まで、「①お名前；②ご所属；③ご住所；④お電話番号；⑤メールアドレス；⑥近況」をお知らせいただければと思います。よろしく願いいたします。

(文責・中村百合子)